

# 心のバリアフリー「縦の糸・横の糸」絆プロジェクト

八尾スローアートショー実行委員会

## 1. 実施概要

### (1) 目的

第 23 回研究助成事業までの成果を「縦糸」に、障がい者の自立支援を「横糸」にしたソーシャルデザインの地域づくりを基本理念に組み入れて設立した特定非営利活動法人「富山ユニバーサルツーリズムセンター」が 2020 年以降に行う「心のバリアフリー」に特化した地域の誇りとバリアを残したバリアフリーツアー及び北陸地域の養蚕・製糸の文化伝承と協働する八尾ブランドの開発等の観光地活性化事業の創出を目的とする。

### (2) 事業の背景・必要性

バリアフリー観光を推進する先進県においては、行政機関等が連携・支援する N P O 法人等によりユニバーサルツーリズムセンター又はバリアフリーツアーセンターが設立されているが、立ち遅れた富山県においては、未だ設立されていない現状にあったことから、2020 年の東京オリンピック・パラリンピックの開催時等に有効に機能できる「富山ユニバーサルツーリズムセンター」の設立について隣県の石川バリアフリーツアーセンターからの強い要請や平成 29 年 11 月 30 日に開催された北陸地域づくり協会の地域づくりセミナーに参加することで得た指導助言に基づき、これまでの活動趣旨や社会的な意義と役割をより明確にし、その活動の持続性を確立するため、平成 30 年 5 月に特定非営利活動法人「富山ユニバーサルツーリズムセンター」を設立した。

設立した法人を基本理念どおりに運営するため、「問題を解決するための課題」を設定し、オリンピック・パラリンピックの開催時には、政府や行政側からの要請を受けて協働して機能できる推進体制及び北陸地域におけるネットワークを 2019 年度末までに構築したうえで、全国的に知名度のある「おわら風の盆」及び国宝「瑞龍寺」等を入力とした将来に渡って持続可能な「心のバリアフリー」に特化した観光地活性化事業を創出する必要があった。

### (3) 事業内容

誰もが住み慣れた地域で安心・安全に暮らすことができるネットワークの構築に関する調査及び国宝「瑞龍寺」及び高岡市伏木から射水市の「水辺のまち内川」等



(2) 八尾ブランド創出事業 (天蚕「縦の糸・横の糸」絆ツーリズム)

☆天蚕真綿の手紬糸とキビソ糸で帯の試作

講師：福井県 嘉村亜紀子氏・京都府 坂根博子氏

☆ループタイ (八つ組・稲妻) の試作 (清澤澄江氏)

☆高岡工芸高校との組紐・ミサンガ等の試作 (講師：清澤澄江氏)



<今後の課題>

- ・天蚕繭の生産量の確保と天蚕生糸のブランド化に係る工程負荷。
- ・商品開発や販売に力を注ぐと天蚕の世話がおろそかになり、生産量が落ちる。
- ・ブランド化商品の価格設定と生産者の情熱のバランスと持続性の確保
- ・糸のづくり手、織のづくり手、製品のづくり手、売り手 (越の絹のブランド化)
- ・担い手の確保 (会員の増)。
- ・売れるパッケージ等の販売方法、買ってもらえる品質の保証。

(3) 日本ユニバーサル推進ネットワーク総会 (6/9~6/10)

☆北陸地域ユニバーサルツーリズムネットワーク会議の開催 (6/8)

会場：和倉温泉「海望」

講師：石川バリアフリーツアーセンター 坂井さゆり氏

☆中能都町モニターツアーと日本ユニバーサル推進ネットワーク総会 (6/9)

☆金沢市観光政策課「観光バリアフリー講座」(2/10)

講師：バリアフリーネットワーク会議 親川修氏 「逃げるバリアフリー」

<今後の課題>

- ・2020年に間に合うように事業展開されたい。
- ・ユニバーサルツーリズム事業に係る分科会を設置して推進して欲しい。
- ・石川バリアフリーツアーセンターと共催のイベントを企画されたい。
- ・八尾でモニターツアーを開催し、ユーチューブで発信して欲しい。

#### (4) 実施経過等

実行委員会：4/17・5/22・6/19・6/27・7/18・8/26・10/23・12/18・1/29・2/26

4/9 日本ユニバーサルツーリズム推進ネットワークの加入

5/29 富山県立高岡工芸高校に天蚕工芸品の共同開発について依頼文提出

9/27 パーキンソンデーサービス事業所「地球の子」日帰りバスツアー付き添い研修

10/12～14 坂のまちアート in やつお 2019 会場：観音寺 ※ボランティア募集開始

10/29 高岡福祉短期大学の国際観光学科の開講記念シンポジウム

「ツーリズムで成功する地域創生 そのための人材育成とは」

基調講演：国土交通省観光庁 観光案内地域振興部長 村田茂樹氏

11/23 第20回八尾ゆめの森収穫祭

快適アクロ・jinriki kuick II で悪路に強い車いす体験会の開催

チャレンジする人がいないと成功する人はいない。失敗を恐れず、多くの失敗を糧に成功事例を創出する。

富山ユニバーサルツーリズムセンターを運営（サービスの提供）するには、「縦の糸・横の糸」の強靱な連携が必要となる。空港も鉄道駅も観光地も完全なるバリアフリー化はできない。

だから心のバリアフリー。誰もが安心して安全に暮らすことができる場所、誇りある地域づくりが必要である。

そして、伝統文化を守り繋ぐ、伝福連携を創出するユニバーサルツーリズムの推進を目標に掲げて邁進する。



### 3. 成果の活用及び本事業の継続の方策

コロナウィルス感染拡大前の日本政府の観光戦略においては 2020 年の外国人旅行者の目標を 4000 万人としているが、産業都市の富山市においては、ユニバーサルツーリズムを推進する動きはなく、文化と観光資源に恵まれている高岡市においては、行政主導のユニバーサルツーリズムを推進し難い財政状況にあるが、立山連峰に富山湾、雪と祭りと国宝級の文化財がある観光立県の条件を全て満たしている富山県に外国人旅行者が 2021 年以降に増加することは必然であると考えます。

世界各国の「移動と生活」を制限し、世界経済を混乱させている新型コロナウイルス

スのパンデミックが沈静化した後に想定される「バリア」のあるバリアフリーツアー対策等の調査研究に着手し、富山ユニバーサルツーリズムセンターの2020年からの本格的な事業基盤を確立し、様々な障がいのある方が住み慣れた地域を誇りに思い、生き生きと暮らすことができ、誰もが行きたいところへ行ける「心のバリアフリー」を重視したユニバーサルツーリズムを推進するために、高齢者、何らかの障がいのある人、日常的に介助する人が旅先で抱える問題を訪れた街の中のネットワークで解決する誘客の仕組みを確立し、日本ユニバーサルツーリズム推進ネットワークの情報発信力等を活用することで、「おわら風の盆」以外の日においても富山県内及び近県の北陸地域の各観光地の活性化を推進します。

富山県がうん天蚕の会の社会的活動を持続させるためにクラウドファンディングや民間の助成を受けて貴重で、希少な天蚕の糸で富裕層に好まれる八尾ブランドの開発を継続し、特定非営利活動法人「愛和報恩会」が栽培する楮で漉いた八尾和紙で包装紙や箱をデザインしてブランド力を高めて販売することで、八尾文化の礎とされる養蚕技術を伝承し、地域の文化を子ども達に伝えるスローアートツーリズムを創造し、障がい者の自立支援の観点からは、国内の製糸や和紙等の伝統産業は後継者が減り、伝統技術が途絶えてしまうという課題と障害者就労支援施設の簡単な作業でやりがいに繋がり難く、工賃が低いと言う双方の課題を解決する「生きた証」と「日本美」が残せる伝福連携による観光地の活性化を推進します。

八尾スローアートショー実行委員会としては、2025年に開催される万国博覧会までの間における行政と協働する地域づくりに関する「問題を解決するための課題」を設定し、更なる八尾ブランドの開発・販売戦略等を整えながら、愛和報恩会で研修するネパール人技能実習生等の研修科目や働き方に取り入れ、共に働く利用者自らがネパールを訪問するユニバーサルツーリズムの実現を図ります。

富山ユニバーサルツーリズムセンターの次世代役員を確保するためにも必要な人財の発掘・育成に努め、古民家や空き店舗を活用した多文化共生とインバウンド事業を推進する八尾スローアートショーの再開やコミュニティカフェ・高齢者サロンの設置を推進し、杖や車いす利用者、小さな子供連れの方、視覚・聴覚等の様々な障がいや日常生活に様々な制限をお持ちの方々が住み慣れた地域を誇りに思い、安心・安全に生き生きと暮らせる地域包括ケアシステムの構築やユニバーサルデザイン2020行動計画の推進に貢献します。

それらの資金計画については、富山ユニバーサルツーリズムセンターの観光地活性化事業及び社会福祉法人恵風会の社会福祉充実計画事業の受託費及び2019年度から2020年度までの八尾ゆめの森交流促進施設における都市農村交流事業等の受託費を事業継続の資金とする計画であり、2021年度以降においても同様に資金確保できる見込みとしています。